

参加対象 教員および教育関係者
 定員 基調講演=200名、研修=100名
 参加費 資料代として2000円(基調講演のみの参加は1000円)
 食事代 2000円(研修に参加する人のみ)
 ★参加費および食事代は、当日受付でお支払いください。



■東京都勤労福祉会館・案内図

JR京葉線—八丁堀駅ヨリ1分
 JR東京駅又は有楽町駅下車15分
 地下鉄
 日比谷線—八丁堀駅ヨリ1分出口A3
 都営1号線—宝町駅ヨリ5分
 銀座線—京橋駅ヨリ10分
 有楽町線—新富町駅ヨリ7分

★参加ご希望の方は、別紙の申込書にご記入のうえ、下記の住所宛にお送り下さい。
 〒114 東京都北区田端1-21-18津田ビル1F ERIC「グローバル・セミナー」係 ☎03-5685-1177

後援 文部省、外務省、環境庁、全国高等学校長協会、東京都教育委員会、
 全国高等学校国際教育研究協議会、日本環境教育学会、開発教育協議会、
 国際理解教育研究所、国際交流基金、大和日英基金

開催日程 1991年10月19日(土)~20日(日)
 会場 東京都勤労福祉会館 東京都中央区新富町1-13-14 ☎03-3552-9131

主催 (社)日本ユネスコ協会連盟
 日本国際理解教育学会
 国際理解教育・資料情報センター(ERIC)



1991.10.19—20 SEMINAR

国際理解教育研修プログラム「グローバル・セミナー」開催のご案内

GLOBAL

[開催主旨]

ますます深刻さを増す環境問題や格差が広がるばかりの南北問題など、地球規模で解決しなければならないさまざまな課題が山積みする現在、一人ひとりが「地球市民」として自覚を持って考え行動することが強く求められています。このような状況を背景に、教育の国際化が叫ばれ、英語教育や帰国子女教育などの実践が行われていますが、1974年のユネスコ国際教育勧告がいうところの、環境、人権、開発、平和等の分野をカバーした広い意味での国際理解教育の取り組みは、現在の日本において未だ十分に行われているとはいえません。

一方、イギリス、オランダ、オーストラリア、アメリカなどでは、教育現場（学校教育、社会教育）でさまざまな形の国際理解教育が展開されており、その実績には目をみはるものがあります。それらの成果の一部は日本にも紹介されるようになりましたが、必ずしも十分ではありません。

このような状況のもとに、第二次大戦直後から民間運動として国際理解教育の普及振興に取り組んできた(社)日本ユネスコ協会連盟、国際理解教育に関わる国内の人的ネットワークと研究・実践の促進を主な目的として今年1月に設立された日本国際理解教育学会、そして内外の実践紹介を中心に、国際理解教育の情報提供および研修を実施している国際理解教育・資料情報センター(ERIC)の三団体が協力して、真の「地球市民」を育てる教育方法を学ぶ研修を実施することになりました。

今回のセミナーは、海外の国際理解教育の実践者から直接話を聞くだけでなく、模擬授業の形で体験を通して、その内容を十分に吸収理解し、日本での実践への道を探ろうというものです。そしてさらに、このような研修の積み重ねを核に、日本における国際理解教育の内容を深め、その普及を推進しようというものです。

GLOBAL SEMINAR

●講師紹介

Miriam Steiner(ミリアム・ステイナー)

1974年、マンチェスター大学大学院で教育学修士号を取得。王立異文化委員会、マンチェスター大学、マンチェスター開発教育プロジェクト、マンチェスター市教育委員会・都市学習センター等で国際理解教育等の実践、指導に携わる。1990年より、イギリスを代表する国際理解教育プログラム「ワールド・スタディーズ・プロジェクト」の事務局長。このプロジェクトは、現在イギリスの30以上の教育委員会が導入している。同プロジェクトを通して開発されたさまざまな手法や授業案は、オーストラリアなどの英語圏に広がっている。主著：「グローバル・コネクション：ワールド・スタディーズ・ワークブック」1989年

Kathleen Williams(キャシー・ウィリアムズ)

1972年、スタンフォード大学大学院で教育学修士号取得後、高校教師、シスカヤウス大学で留学生アドバイザー、帰国学生プログラム・ディレクターとして教育現場に携わる。1985年、南オレゴン大学大学院でコミュニケーション、心理学修士号を取得。1986年より、アメリカを代表する異文化理解教育研修コースである「異文化間コミュニケーション夏期講座」(オレゴン州ポー

トランドで開催)のスタッフとして、教師を対象に、異文化理解の研修を数多く行っている。

Ralph Pettman(ラルフ・ペットマン)

オーストラリアのアデレード大学を首席で卒業後、1971年、ロンドン大学で国際関係論の博士号を取得。プリンストン大学(米国)やシドニー大学などで教鞭をとる。1981年よりオーストラリア人権擁護委員会・全国学校教育プログラムの総責任者を務め、人権教育の分野で最も評価の高い教師用引書を編集。その功績により国連人権センターに招かれ、国際的な使用に耐える人権教育の手引書(小・中学校用)を執筆する。(国連公用5ヶ国語で出版されている)

主著：Teaching for Human Rights 1984年(邦訳「人権のための教育」明石書店) Teaching Human Rights 1986年、国連出版局刊

天城 勲

1969年1月～1971年6月、文部事務次官。その後、日本育英会理事長、日本学術振興会理事長等を歴任。現在、文部省顧問、日本ユネスコ国内委員会会長、(財)日本国際教育協会副会長等の職にある。

P R O G R A M

10月19日(土)

- 13:30 受付開始
14:00 オリエンテーション
14:15 研修1
体験を通じたイギリスのワールド・スタディーズの紹介
●講師
・ミリアム・ステイナー
・関 典子
・吉田 新一郎
- 17:00 一般受付開始
17:30 開会あいさつ
・栗野 鳳(日本ユネスコ協会連盟理事長)
・中島章夫(日本国際理解教育学会専務理事)
- 17:45 基調講演
・天城 勲 「国際理解教育の視点」
- 18:15 基調講演
・ミリアム・ステイナー 「イギリスにおける国際理解教育」
- 19:30 休憩
19:45 質疑応答
20:30 終了

10月20日(日)

- 9:00 研修2(テーマ別)
●講師
ミリアム・ステイナー 開発教育
キャシー・ウィリアムズ 異文化理解教育
ラルフ・ペットマン 人権教育
角田尚子 環境教育
- 12:00 昼食
13:30 研修の評価・反省および今後の展開についての討議
15:30 終了

吉田新一郎

ERIC事務局長。マサチューセッツ工科大学、カリフォルニア大学大学院で学士、修士号を取得。主著：「市民の海外協力白書」(編著、1985年)、「地域からの国際化」(編訳、1987年、共に日本評論社)、「楽しく世界とつながるイベントの事例集」、「ワールド・スタディーズ」(共訳)

角田尚子

1984年大阪大学人間科学研究科博士課程(教育技術学・教育課程論専攻)修了。現在、グリーンピース・ジャパン代表、ERIC企画委員。主著：「現代教育課程論」(共著、1981年、有斐閣)「地域からの国際化」(共訳)、「小学校教師向けの環境教育ガイドブック」(共訳、日本ユネスコ協会連盟)

関 典子

1977年～79年、UWC日本協会(事務局・経団連)派遣奨学生としてピアソン・カレッジ・オブ・パシフィック(カナダ・ブリティッシュコロンビア州)に留学、国際バカロレアを取得。早稲田大学を卒業後、翻訳・通訳業に従事。現在は、ERIC勤務。主著：「教室の中の世界：国際理解教育の目的・方法・コースなどに関するアンケート調査—カナダとの比較考察」(ERIC、1990年)、「ワールド・スタディーズ」(訳書)